は入るに及ばず、稻によき程の地ならば、五月の中に、濃糞を一二遍もうつべし、若地の性つよく和らぎかぬる所ならば、くさりたる草、あくた、其外土の和らぐ物を入べし、但長ながらば入べからず、すさのごとく切て、ふるひかくべし、山草どほろ猶よし、されど肥過て、莖葉甚さかゆれば、根の實り少し、中うち芸る事も、うへ付てはなりがたき物なるゆへ、うゆる前方こなし、草生ぬ樣にすべし、さて掘取事は、九十月水をおとし、乾してほり取べし、若水を落す事ならぬ田ならば、廻りをせき水をかへ、乾しをき、一方に鍬にて一筋掘口をあけて、手にて掘取べし、鍬にてほれば、根に疵付損ずる物なり、但一度に悉くほり取べからず、市町にうるとても、一度に過分には入ざるゆへ、度々におこすべし、清水にてきよく洗ひ、桶に水をため入て外にをき、日おひをし、日風に當べからず、夜は内に入べし、又は泥ながら濕地にいけ置て、用にまかせて、洗ひたるもよし、掘取て廿日ばかりは、折々水をかけ置ても、損ずる事なし、

〔堀川院御時百首和歌春〕苗代　阿闍梨隆源

くはゐ生る野澤の荒田打かへしいそげるしろは室の種かも

苦草

〔重修本草綱目啓蒙十六水草〕苦草　セキセウモ　江州　ヘラモ　同上

江州琵琶湖ニ多シ、根ハ水底ニアリ、葉ハ黑三稜ニ似テ薄ク、子ヂレテ叢生ス、一種葉邊ニ軟刺アルヲコウガイモト云フ、

〔武江產物志藥草〕道灌山ノ產　苦草（せきしやうも）

龍舌草

〔多識編二水草〕龍舌草、今案多豆乃之多、

〔大和本草八水草〕龍舌草　水中ニ生ズ、葉如車前、水中生花、花白如菱而大、處々有之、本草水草類載之、西土ノ方言水ホコリト云、水カハケバ葉枯ル、又水葵ト云、葵葉ニモ似タリ、花ハ三出ナリ、八月ニサク、實ハ三角アリ、細ナリ、